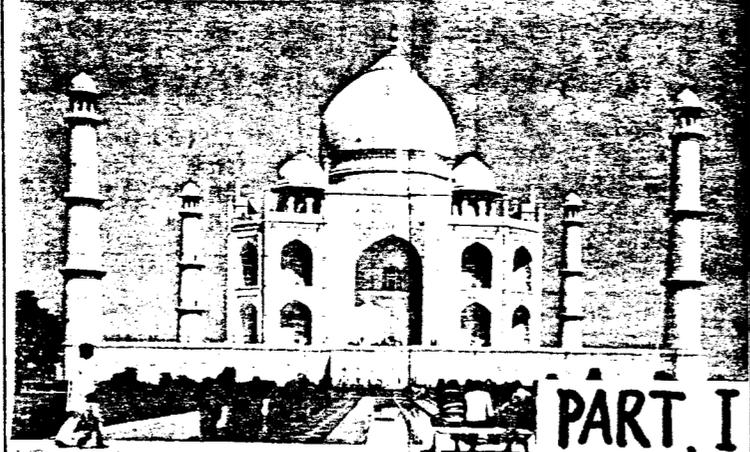


830907

8

No 00092

INDIA 石垣隆宣のおもしろ旅



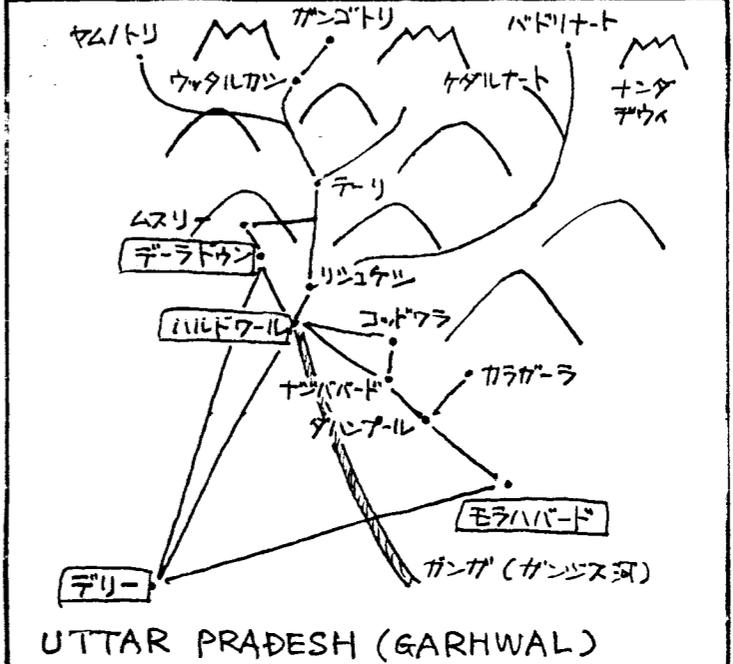
PART. I

8/11 午前3時 空港着。通関後、通路でゴロ寝するが、むし暑くて寝つかない。外はむわむわとする暑さ。早朝、バスでコンノートアリス(ニューデリーの中心街)へ。オートリキツヤでオールドデリーの長距離バスターミナルへ。デラドゥン行を捜す。30番線以上もあるので、人や車等に尋ね歩き、争って切符を買えば、席を確保。空にわかにかき曇り、どしゃ降り。一転、涼しくなり爽快。8時出発。寝不足のため、居眠りばかり。途中、踏切で1時間近く待たされる。鼓をぶら下げた少年が乗り込んできて、両手で打ち鳴らしながら、かみ高い声でなにわ節調の歌をえんえんと続ける。一同喝采。バクツーツ(4アップ)午後4時、デラドゥン着。日なたは頭がくらくらする暑さ。ムスリー行に乗る。バスは山腹をツクツクに登り、ガスが行き交う山上へ。高度2000m。ダーツリンヤツムラと並ぶ。英国統治時代からの避暑地。肌寒く、皆、上着、セーターを着ている。宿500円。夕食、4チャパティ、マトンコルマ。(ヨーグルト漬け肉のカレー)、サラダ(トマト、タマネギ、ダイコン、ライム、唐辛子)、4チャイ、400円。

8/12 南インド風の食堂で朝食。マサラドサ(ポトクレーのクレープ)とエスプレッソコーヒー。街はすれの土砂くずれ地点で、テリ方面へのバスを見つけ乗り込む。乗客の「バス、バス」の声のとびかうなか。(バスとはもう、じゅがぶんの意)崖ぎりぎり、恐怖のUターン。出発後、切符を買ら段になり、テリには行かないと告げに言われ、止めて降りしてもらい、街まで見る。聞けば、テリ行は朝7時と3時半の2本のみとのこと。やむなくこの日はバザール散策。射的6発1Rs(25円)。風船を30発撃つ。弾は鉛。銀行で札をくずす。田舎では10Rs札(250円)でも使いつらい。100Rs札など金でなくなる。ヒンドゥーの神のペンダントに India Japan と文字を入れてもらう。先ほどのバスや街の電気屋のカセットで4年前のヒット作「スバーク」の映画音楽を耳にする。なつかしい。夕方、映画「ツヤンカール」を観る。財産等をめぐり、子供の命までもらう悪党と正義のアクションがメインだが、愛情物語あり、学園コメディあり。ストーリーは支離滅裂。これにインド独特の踊りとダンスこのミュージカルシーンが加わる。ハッピーエンド。夜は別の宿 15Rs。食後、ウイスキーの木割りを2杯飲む。26Rs。酒は高くつく。

8/13 宿の使用人は6時きっかりに起こしてくれたが、バス乗場に着いたときにはすでに満員。すわれず、7時出発。ガスの舞う尾根をゆくり下ってゆく。野ギクのような花がいちめんに咲いている。ガスの切れ間に、一瞬、ヒマラヤがうかびあがる。チャンバでリツケツからの隘に合流。このあたりは段々畑が連なり、日本の山村を思わせる、ガンガ(ガンジス)

の2支流の合流点、テリ着。交匯の拠点で、めし屋の連なる通りにバスがひしめいている。ライスにダル(豆)スープをかけ、サアツ(野菜カレー)をつまんで昼食。ウツタルカン行のバスに乗る。ここからはガンガ沿いのトラバース道路。運転席横にむりやりすわったが、エンジンの熱で暑さムンムン。4時到着。ツーリストオフィスで、カンゴトリの状況をきくと、この先2か所でかけすれのためバスは行かず、復旧に4日かかるとのこと。米河もパノラマを約と化す。バギラティ・トラベルという名のエージェントがあり、ドウティ・タルという山上湖へのトレッキングなら可能とのことだが、往復4日の行程なのでやめにする。オーストラリアの女性と同行できたのに残念! ここではガイド、コック、ポーターのあ、施をしていて、60、45、30/dayで雇える。装備のレンタルも可能。ウツタルカンはカルワール。カンゴトリ山群の登山基地で、ネール登山学校がある。夜、無精の雨が降る。



8/14 とりまえず リンケテンに戻ると 6時半
 出発。街はずれて、突然 バスが止まり、人々が
 何か言いながら降りるので、後に乗くと、1分も
 たたないうちに、ごう音とともに上方のかけが
 くすれ、土砂が 匝路を埋め、さらにカンガへと
 落ちていく。危くカンガの急流のそくすとな
 るところだった。聖なる河の聖地近くとはい
 え、不慮の事故死では成仏できない。(ヒンド
 ウーの教えでも)。2時間ほど待ったが、依然、
 小きざみに 落石が 続き、やめてきたブルモ
 一部排除したのみで退散、やむなく 折り返し
 バスを乗り継ぎ、再び 不運箇所に出会い、ど
 どさくさのなかを、リンケテン行のバスめかけ
 て強引に乗り込む。乗席は オレンジのサドウ
 花を着た 巡礼者。彼は、ヒンドウー語、英語を
 話せず、周囲との会話が 成り立たない。自国
 を旅するのに外国人以上の困難がある。テーリ
 で マンゴー (500g, 約300 125円) とリンゴ (500
 g, 75円) を買う。マンゴーは おの高貴な香り
 とろける甘さで くだもの王といわれる。リンゴ
 はヒマラヤ山麓では安い。インドでは最も高
 価なくだもの。リンケテンで カンガは 山中か
 ら平原に出る。ボートルズが ヨガの修行をした
 地。乗合タクシーで ハルドワールへ。4人乗り
 の車に 大人8人、志ん坊3人。この先、デリーに
 戻るのそつまらないので、駅やバスターミナルで
 行先をあれこれ 選定する。昔、入った 食堂を見
 つける。同じ定食が出される。味の記憶までよ
 めがえる。夜になり、宿を捜すのも面倒なので、
 駅前広場で 巡礼者の群れにまじって コロ寝。

8/15 朝、カンガのほとりて 沐浴する人々を
 みる。私は、以前、リンケテンで必要に迫られて

ウッタルカシ付近の山



したことがあるので 今度はやめにする。乗車が
 止まっても送る。とりまえず、手ごとの 略図を頼
 りに コーベット国立公園をめざすことにし、コッ
 ドワラ行のバスに乗る。植林された林とのどか
 な 園圃風景が 心ろがり。屋敷地もよい。きよ
 うは インドの 独立記念日。コッドワラの バスタ
 ンドで 湖の入口カラガラ行のバスを乗ると、
 そこへは、運車わり (2つの町を 経由) しなければ
 行けないと 教えられる。乗合ミニバスで ナツババ
 ードへ戻り、運転手の口添えて バスタンドの人に
 ダハンプル行のバスを見つけてもらう。その口添
 えて 車掌に ダハンプルで 降りしてもらおう。カラ
 ガラへは、すし詰めバスに乗る。途中、どしゃ
 降りとなる。終点、カラガラは 予想していた
 街でなく、店はおろか 店もない 新開地。夕暮
 れとなり、ししも雨が 降っている。どうしようも
 かさをさして 歩いている。自転車で 通りかか
 たんに 声をかけられる。英語を 話せないんだ
 が、こちらの 車構を察して 自宅へ案内してく
 れる。奥さんと 子供2人。靴、イス、ベッド、ラジカ

セのほか、これといった 家財道具はない。当初、物
 置の ベッドを 種族してくれるらしかったが、知り
 ぬ。の 従人につけて、国の 宿泊施設を 借り
 てくれる。その 翌、知人の 家で、かなり強い 蒸留
 酒を 飲ませてくれ、食卓で 食事をおごってくれる
 この間、ずと 息を、自転車の 荷台にのせて 連れ
 まわす。知りあいは 出会うと 止まって 立ち話。イ
 ンドでは 人間ネットワークが 強カ
 で、情報は ココミで すぐに ひろがり。国の 機関
 での 手続きが 面倒で、ルーズなのと 対照的に、
 知人を介して 何かを 依頼すると スムーズに 事
 が 運ぶことがある。恩人 カルマ氏に 100円
 ライター 2個 と 300円 の ポールペンを プレゼント。
 777

830907

No 00092